

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一6:9～12「神の国の相続者」

[9-10]「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪するものはみな、神の国を相続することができません」

ありとあらゆる悪徳が渦を巻く大都市コリント。当時、「コリント人になる」と言われることは、悪徳放蕩にふける者となることを意味した。そしてコリント教会もこの町の影響を色濃く受けていた。パウロはこのような問題に対して厳しく警告する。神は聖いお方であり、不義なる者を決して見過ごされない。神の前に正しくない者は神の国を相続できないのである。

ここではコリントにおける代表的な10種類の悪徳があげられている。特に当時のギリシヤやローマ人の間では「男娼となる者」「男色をする者」が非常に流行しており、ある聖書注解者によれば、歴代ローマ皇帝のうち14人がこの罪にふけていたという。

[11]「あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです」

ここではコリント教会のある人たちは、以前はそのような者であったとパウロは言う。過去形で言われているが、彼らはかつてはそのような罪のうちを歩んでいたが、主イエス・キリストの御名と神の御霊によって洗われ、聖なる者とされ、義と認められた。罪人に福音がもたらす驚くべき恵みの事実がここにある。→ヘブル10:22、Iコリント1:2, 30、ロマ8:30 主イエスを救い主と信じる者はみな救われ、変えられるのである。

しかし、新しくされたはずのコリント人たちであるが、そこには相変わらず生まれながらの肉적인考え、回心する前からの良くない習慣、福音の誤った理解、誤った行動が見られた。

[12]「すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけではありません。私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんなことにも支配されはしません」 「すべてのことが私には許されています」とパウロは二度も繰り返しているが、これはコリント人たちが不品行の口実として語っていたことを切り返して引用したことばと思われる。パウロはこのことばの真の意味を教える。①すべてが許されているといっても、すべてが益になるわけではない。これは他人との関係における規制であり、自分のみ益となって、他人の不利益、不自由になるようなものは自由とは言えない。②すべてのことが許されているといっても、どんなことにも支配されはしない。これは、自由にはそれに支配されないための自己制御が必要ということ。このような条件を考慮した自由こそ本当の自由である。

パウロはこのようにコリント教会の問題点を指摘するが、それは彼らのことを気にかけて心配しているからであって、決して彼らを突き放しているのではない。